

OECD生徒の学習到達度調査(PISA2006)のポイント

【調査概要】

- 義務教育修了段階の15歳児(高校1年生)を対象とする。
- 知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかを評価する。
 - ※2000年調査(読解力中心)、2003年調査(数学的リテラシー)に続き、3回目の調査(平成18年6、7月に実施)
- ※今回は科学的リテラシーを中心に、読解力、数学的リテラシーについても調査
- ※科学的リテラシーとは、科学的理解と同時に、科学的な見解を適用し、証拠について科学的に考えることのできる能力を求めるもの。
 - ※ 57カ国・地域が参加

【結果概要】

- 前回同様、科学的リテラシーは国際的に見て上位、読解力はOECD平均と同程度。
- 数学的リテラシーはOECD平均より高得点のグループであるものの、平均得点は低下。
- 科学への興味・関心や科学の楽しさを感じている生徒の割合が低く、観察・実験などを重視した理科の授業を受けていると認識している生徒の割合が低い。

【分野別の結果】

	科学的リテラシー	読解力	数学的リテラシー
国際的な位置付け	上位グループ	OECD平均と同程度	OECD平均より高得点のグループ
OECD加盟国中	3位 / 30カ国 (2位/30)	12位 / 30 (12位/30)	6位 / 30 (4位/30)
全参加国中	6位 / 57カ国・地域 (2位/41)	15位 / 57 (14位/41)	10位 / 57 (6位/41)
(※) ()内は2003年調査の順位。			
平均得点の2003年調査との比較	全体の平均得点では比較できない 前回との共通問題では変化なし	2003年の平均得点と変化なし	2003年の平均得点より低下